

派遣専門家オリエンテーション資料

マーシャル諸島

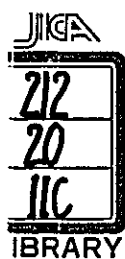
Republic of the Marshall Islands

任国情報

1995年

国際協力事業団

国際協力総合研修所



はしがき

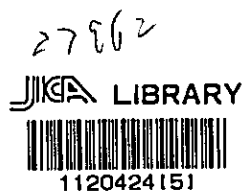
この任国情報は国際協力のために赴任される専門家およびJICA役職員等に、任国での生活上必要な事項についての情報を提供するものです。

本書の刊行にあたっては当該国に派遣中の専門家、協力隊調整員等JICA関係者の皆様より多大な御協力を得ました。また、外務省、在外公館、その他関係機関の御好意により、貴重な資料の一部を利用させていただきました。

今後も、本書の内容を一層充実させ、常に、新しい情報の提供に努めたいと考えております。

本書が国際協力の分野で活躍される方々の参考となれば幸いです。

平成7年3月
国際協力事業団
国際協力総合研修所長



国際協力事業団

1962

目次

I 概況	1
II 生活事情	6
1. 食生活	6
2. 衣料	9
3. 住宅	11
4. 医療	13
5. 教育	16
6. 家庭の使用人	19
7. 交通事情	20
8. 通信	22
9. マスコミ	23
10. 教養、娯楽、趣味、スポーツ	24
11. その他のサービス	28
12. 観光	29
13. 治安、緊急時の心得	31
14. 出入国手続および帰国手続	32
15. 私財の輸送、引き取り、購入	34
16. 社交	36
17. 任国官公庁	37
18. 在外日本関係機関など	39
19. 地方都市	40

1 概 況

表1：マーシャル諸島概況

a) 正式国名	(和文) マーシャル諸島共和国 (英文) Republic of the Marshall Islands
b) 独立年月日 旧宗主国	1986年10月21日、米国との自由連合協定の発効により事実上独立 米国
c) 政 体	共和制
d) 元首の名称	アマタ・カプア (Amata Kabua) 大統領 (1992年4期目就任、任期4年)
e) 位置・面積	北緯4～19度、東経160～175度 180平方キロメートル (陸地面積) (注1)
f) 首 都	マジユロ (Majuro)
g) 総 人 口	4万8,000人 (1991年) (注2)
h) 民 族 等	カナカ族及びカナカ族と米国人、ドイツ人、日本人との混血
i) 公 用 語	英語、マーシャル語 (ミクロネシア系言語)
j) 宗 教	キリスト教 (プロテスタントが大部分)
k) 暦	<日本との時差> 3時間 <祝祭日> (注3) 1月1日 新年 5月1日 憲法記念日 5月最終月曜日 メモリアルデー 7月4日 漁師の日 9月第一日曜日 労働の日 10月24日 国連の日 11月最終木曜日 勤労感謝の日 12月25日 クリスマス 12月31日 大晦日

出所 (注1)『世界の国一覧表』 1992 世界の動き社

(注2) World Development Report 1993 The World Bank

(注3)『続・南太平洋島しょ国』 1992 日本貿易振興会

(1) 国土の概要

マーシャル諸島は、中部太平洋の北緯4～19度、東経160～175度の海域に広がる29の環礁と5つの島嶼から成る。平行に並んだ2列の島嶼は各列がラタック（日の出）、ラリック（日の入り）と呼ばれ同諸島を2つのグループに分けている。海域を含めた面積は200万平方キロメートルを有するが陸地面積は僅か181平方キロメートルの海洋国である。首都マジュロはホノルルまで3,700キロメートル、東京まで3,200キロメートルと遠く隔絶される。最大島はクワジェリン環礁で16.4平方キロメートルである。首都マジュロのあるマジュロ島は113.9平方キロメートルの広い礁湖を取り巻く64の細長い小島より成り、陸地面積は9.7平方キロメートル。マジュロの中心地は、ダラップ、ウリガ、ダリットの3島で、同地区はこれらの島の頭文字をとってDUD地区と呼ばれ、官庁や商業施設が集中する。ほとんどの島が平坦で、海拔1～3メートルと低い（以上数値は国際漁業協力財団資料、1987）。

(参考文献)

『マーシャル共和国水産振興に関する調査報告書』 1987 国際漁業協力財団

(2) 気候

熱帯海洋性気候に属し、高温多湿である。全国の平均気温は27度、貿易風の強まる12～3月には乾燥し気温が下がる。全国の年平均降水量は3,600～4,500ミリだが一般に北部マーシャル諸島では南部より雨が少なく平均降水量は1,780ミリと全国平均を大きく下回る。10月、11月に特に雨が多く、12～4月が乾期、南部に行くに従い降水量は増加し、乾期は短くなる。マーシャル諸島は、台風の通過圏ではないが、国土が低地のため高潮に侵されやすく1958年には旧首都のヤブウォール島が台風の直撃により建物が全壊し、また79年には現首都のマジュロが2週間にわたって高潮を受け大きな被害を被っている（以上数値は国際漁業協力財団資料、1987）。

(参考文献)

『マーシャル共和国水産振興に関する調査報告書』 1987 国際漁業協力財団

(3) 人口

1988年の国勢調査によるマーシャル諸島の総人口は4万3,380人となっている。このうち首都マジュロには1万9,664人、米国のミサイル実験場のあるクワジェリン環礁にあるイバイ島には基地で働く現地の人9,311人が居住し、この2島で全体の6割以上を占める。34の島嶼のうち原爆実験のため居住不可能となったビキニ環礁を含めた無人島が11島ある（以上数値はマーシャル政府資料、1988）。

(参考文献)

Republic of the Marshall Islands Statistical Abstract 1988/89 1988
Marshall Islands Office of Planning and Statistics

(4) 略史

表2：マーシャル諸島共和国略年表

	出来事
1528年	スペイン人アルバロ・デ・サーベドラにより発見される
	スペインによるマーシャル諸島領土化宣言
1885年	ドイツの保護領となる
1914年	日本が同諸島を占領
1919年	日本の国際連盟委任統治領となる
1945年	米国が同諸島を占領
1947年	米国の国連信託統治領となる
1946～58年	ビキニ、エニウエトク環礁における米国の核実験
1965年	ミクロネシア議会発足
1978年	米国と自由連合になることに同意、ミクロネシア議会脱退
1979年5月1日	憲法制定、自治政府発足。アマタ・カプア大統領選出
1980年	エニウエトク環礁の核安全宣言により住民帰島
1982年10月	米国と自由連合協定を締結
1983年	住民投票により同協定が承認される
1986年9月17日	国連加盟が総会で承認される
1986年10月	米国との自由連合協定発効、事実上の独立
1992年1月15日	第4期アマタ・カプア内閣発足

出所 『オセアニアを知る事典』 1990 平凡社
「マーシャル諸島共和国概要」 1993 外務省

(5) 民族等

1980年の国勢調査では人口の96.6%がマーシャル人（ミクロネシア系）。他のミクロネシア系を含めた太平洋諸国人が約2%、アジア・ヨーロッパ人は1%に満たない。ただし、米国が権利を有するクワジェリン環礁のミサイル基地には2,000人以上の米国軍人、一般人が居住すると言われている（以上数値はマーシャル政府資料、1988）。

(参考文献)

Republic of the Marshall Islands Statistical Abstract 1988/89 1988
Marshall Islands Office of Planning and Statistics

(6) 言語

マーシャル語と英語が公用語。学校では英語が使われ、特に首都マジュロでは英語の普及率が高い。

(参考文献)

Pacific Islands Year Book 1986 Pacific Publications

(7) 宗教

過去およそ100年の間に国民のほとんどがキリスト教徒となった。プロテスタント教会が中心であるがカトリック、7th Day Adventists等の教会も学校、病院運営などを通じ

国民の生活に入り込んでいる。しかし一方では伝統的宗教、タブー、伝統医薬に対する信仰も根強く残っている。

(参考文献)

Pacific Islands Year Book 1986 Pacific Publications

(8) 文化

不明

(9) マス・メディア

日刊紙は発行されていない。マーシャル諸島ジャーナルがマーシャル語及び英語で毎週発行される。マス・メディアの中心であるラジオは国営ラジオ局（V S Z O）がマーシャル語、英語で放送を行っている他、民放のFM局が1局、テレビ局が1局ある。

(参考文献)

Pacific Islands Year Book 1986 Pacific Publications

表3：経済指標 [マーシャル諸島]

1) 主要経済指標の推移	年	(1989)	(1990)	(1991)
GDP (注1)		N.A.	N.A.	N.A.
一人当たりGNP (ドル) (注2)		N.A.	N.A.	N.A.
GDP実質成長率 (%) (注1)		N.A.	N.A.	N.A.
消費者物価上昇率 (%) (注1)		N.A.	N.A.	N.A.
失業率 (%) (注3)		N.A.	N.A.	N.A.
貿易 (百万ドル)	貿易収支	: N.A.	(注1)	
	輸出額	: N.A.	(注1)	
	輸入額	: N.A.	(注1)	
経常収支 (百万ドル) (注1)		N.A.	N.A.	N.A.
対外債務残高 (百万ドル) (注2)		N.A.	N.A.	N.A.
債務返済比率 (%) (注2)		N.A.	N.A.	N.A.
外貨準備高 (百万ドル) (注2)		N.A.	N.A.	N.A.
2) 通貨	通貨単位: USドル			
3) 会計年度	10月1日～9月30日			

出所 (注1) International Financial Statistics Yearbook 1993 IMF
 (注2) World Development Report 1991-1993 The World Bank
 (注3) Year Book of Labour Statistics 1991 ILO

II 生活事情

1. 食生活

1-1 食料

(1) 一般事情

日常生活用品のほとんどが輸入品であり、食料品全般についても例外ではない。それらの大半はアメリカから、そのほか日本、オーストラリアなどからも輸入されている。したがって、野菜などの生鮮食料品はこまめにスーパーをチェックした方がよい。ものが手に入りやすく、店の方でも商品が入ると店頭で「Fresh Today」や「Fresh Vegetables Arrived」などの横断幕を張るので、それらを指標とするのもひとつの方法ではある。

なお、賞味期限の過ぎた商品をそのまま店頭で並べている店舗が多いので、必ず確認してから購入した方がよい。

(2) 主な食料の出回り状況

米――すべて輸入品で、そのほとんどがカリフォルニア米である。また、オーストラリアからもいくらか輸入されている。そのため品切れとなることはないが、ときどき古くなって虫が入っていることがある。

パン――ほとんどが輸入品とで、店頭では冷凍もしくは冷蔵の形で売られている。当地で焼かれているパンもあるが、甘いものが多い。リタ地区に小さいパン店が1軒あり、ここではドーナツ、ケーキなども売られている。

肉類――すべて輸入品で、冷凍されて店頭で並んでいる。牛、豚、鳥、七面鳥などが揃っている。鳥類の肉を除いては部位別に分けて売られていることはほとんどなく、主に用途別に分けて（ステーキ用、ポークチョップ用など）売られている。ほとんどのものは骨付きのまま適当な厚さにスライスされ、数枚ずつパックされている。ときとして牛肉、豚肉ともにブロックで売られていることもある。

野菜類――ほとんどが輸入品である。じゃがいも、タマネギ、にんじん、ピーマン、ショウガ、ニンニクなどは比較的安定して出回っているが、葉物野菜、特にレタス、キャベツなどは店頭で並び始めた時に買わないとなくなってしまうことが多い。あっても悪くなっていることが多々ある。また、ローラ地区にある中国の農業試験場でつくられた野菜が週に2度（火・金曜日）ダウンタウンで売られているので、そこでは新鮮な野菜を手に入れることができる。

乳製品――チーズ（チェダー、モッツアレラ、シュレッド、パルメザンなど各種）、バター、マーガリン、ヨーグルト、サワークリームは冷蔵品として、牛乳、生クリームはロングライフ製品がオーストラリア、アメリカから輸入されている。ときどきカッテージチーズが店頭で並ぶこともある。なお、これらの品物は賞味期限を必ず確認してから買うことが大切である。

果物類――リンゴ、オレンジ、グレープフルーツ、レモンなどが主にアメリカから輸入されている。コスラエからはタンジェリンやマンダリンが入ってくる。バナナ、ブドウ、洋ナシ、スイカ、パイアも店頭で並ぶことがある。当地でとれるミ

ニサイズのバナナ、ココナッツがときどき売られている。

魚類—主に当地でとれた魚が水産省を通じてスーパーなどの店頭で、小さいものはそのまま、大きい魚は切り身となって出ている。したがって、風が強い日や海が荒れている時は漁に出ることができず、魚がないこともある。

調味料—塩、コショウをはじめとするほとんどのスパイス、ハーブ類は揃っている。しょうゆ、みそ、みりん、酢、わさび（チューブ入り、粉末）、七味とうがらし、だしの素などもスーパーで売られている。砂糖は、グラニュー糖、ブラウンシュガー、粉砂糖が売られている。

食用油—サラダ油（ベジタブルオイル）、オリーブ油、ごま油、ショートニングがほとんどの店で入手できる。

酒類—ビール、ウイスキー、ブランデー、ウオツカ、ワイン、ラムなど、メーカーを問わなければほとんどの酒類が入手可能である。日本酒も売られているが、古くなって変色していることもあるので要注意である。

飲料水—基本的に水道水は20分以上煮沸した後に飲用とした方がよいとされている。マジユロ市内に飲料水メーカーが2社あり、契約により5ガロンのボトル（約19リットル入り）を配達してくれる。スーパーでは1ガロン入りを2ドル前後で買える。

その他—缶詰類はフルーツから野菜類、加工食品まで種類が豊富である。日本食料品にはいなりずし用の味付き油揚げ、巻きずしのもと（巻きずしの具として味つけされたかんぴょう、しいたけなど）、すきやきのもと（しらたき、タケノコ、しいたけの水煮）などがある。

(3) 食料の入手

主なスーパーは次のとおりである。

R R E ウリガ地区 電話 625-3250、625-3119、625-3470、625-3380

ロングアイランド地区にも支店を出している当地最大のスーパーである。

Gibson's デラップ地区 電話 625-3321、625-3691、625-3190

アメリカ大手スーパーのマジユロ支店で、野菜は少ないが、果物は豊富に揃えている。

Momotaro スモールアイランド本店 電話 625-3334、625-3778

DUD内に3店舗を構える。生鮮食料品は少ないが、日本食料品などで意外なものも売っていることがある。

Gushi Brothers ウリガ地区 電話 625-3688、625-3585

他店に比べ品数は多くはないが、値段が安い。（特に野菜類）

D A R ウリガ地区 電話 625-3174、625-5454

裏通りにあり比較的小さいが、なかなかの穴場である。

これらの店では日本のスナック菓子も入手可能である。ベビーフードも数種類売られている。また、これら以外の店でも、生鮮食料品以外のものならばほとんどのものは手に入れることができる。

1-2 食器・調理器具など

(1) 食器・調理器具などの入手

冷蔵庫、電気釜、トースター、ミキサー、電子レンジ、コーヒーメーカーなど、ほとんどの電化製品は当地で調達可能である。包丁、まな板（プラスチック製）、鍋、やかん、フライパン、おたま、こし網、包丁とぎなどの調理器具、スプーン、フォーク、ナイフ、コップ、コーヒーカップ、皿、小鉢、プラスチック製の小井・れんげなども入手可能である。また、耐熱ガラス製品、ケーキ型なども種類が豊富にある。

(2) 日本から持参した方がよい食器・調理器具など

茶わん、おわん、はし類は入手困難なので持参した方がよい。菜ばし、木じゃくし、おろし金、すりばち、すりこぎも当地では入手できない。中華鍋も当地ではあまりよいものが手に入らないので、必要ならば持参した方がよい。また、当地ですしをつくるならば、すし桶と巻きすは必要である。

日本から電化製品を持参するなら変圧器が必要である。

1-3 外 食

(1) 飲食店

主なレストランは次のとおりである。

ホテル内のレストラン

Royal Garden TEL 247-3701～3

Tide Table TEL 625-3250

中華料理店

Lanai Restaurant TEL 625-3155

FAB Restaurant TEL 625-5424

日本料理店

Stone House TEL 247-3992

その他

Kitco Restaurant TEL 625-3208

DAR Coffee Corner TEL 625-3174

Quik Stop TEL 625-3855

Mother's Kitchen TEL 625-3334

ほとんどの店で出されるのは、アメリカンフードである。なお、マジユロ市内のレストランではチップはいらない。

(2) その他の飲食店

次のような店がある。

Marshall Islands Club DAR Coffee Corner の隣 電話 625-3756

Charley's Tavern Kitco Restaurant の隣 電話 625-3341

PJ's Lounge Majuro Bowl 2階

The Pub (ディスコ) JOCV 事務所のそば

Club Lanai (Lanai Restaurant が 22:00 からディスコとなる)

2. 衣 料

2-1 衣 料

(1) 一般事情

年間を通して夏服で過ごすことができる。アメリカ製のシャツ、ワンピース、ズボン、スカート、当国製のムームーなどが出回っているが品薄である。価格はTシャツが20ドル前後、ワンピースが20～60ドルと安価ではない。

(2) 日本から持参した方がよい衣料

男性用、女性用、子供用、乳幼児用を問わず、綿製品を主体として日本から持参した方がよい。履物も同様である。

(3) 任国で調達した方がよい衣料

Tシャツ、アロハシャツ、ムームー、サンダルなどは入手が容易である。

(4) その他の留意点

強い日差しを避ける意味でも、男性、女性ともに水着の上にTシャツを着用した方がよい。

またレストランなどでは冷房が強すぎることが多いので、長袖シャツ、カーディガンなどがあるとよい。

2-2 礼 装

(1) パーティ

格式の高いフォーマルなパーティはまずない。多いのはアイランドカジュアルと呼ばれる服装で、男性はアロハシャツと長ズボン、女性はムームーが基本であるが、指定のない場合も含め男性は襟付きシャツと長ズボン、女性は肩、胸元、太ももを覆う程度のワンピースかスカートで十分である。

(2) 式 典

日本の祝祭日には特にない。当国の祝祭日、配属機関の行事などで式典のある場合は、パーティの時と同様でよい。

(3) その他の冠婚葬祭

一般的な葬式の際は、男性は襟付きシャツと黒に近い色のズボン、女性は黒、青、紫などのムームー、ワンピースなどを着用すればよい。

(4) その他の留意点

男性の場合、ふだんはネクタイ、背広を着用する習慣はないが、キャピタルビルディングに入る際は襟付きシャツにネクタイ着用が義務づけられている。(月～水曜日)

2-3 洗濯、仕立て、修繕、保管

(1) 洗 濯

クリーニング店はなく、ドライクリーニングもできるところはない。洗濯機、乾燥機が備えられているアパートもある。当地ではコインランドリーも利用できる。

アイロン、洗濯機は当地で購入可能なので、持参する必要はない。

(2) 仕立て、修繕

仕立店、修繕店はない。ミシンを持っている人に個人的に依頼するか、自分で行なうことになる。

(3) 保 管

ドライクリーニングができないので皮革、絹製品の手入れはややむずかしい。

3. 住 宅

3-1 住宅事情

(1) 一般事情

人口過密で、住宅の絶対数が不足している。したがってアパートや一軒家の空きは少なく、あっても修復に1ヵ月以上かかったり、前金を渡していてもほかの人が先に住んでしまうこともある。この場合は前金を返却してもらい、別の住宅を探すべきである。

外国人の多く住むアパートは、出入りが多く、契約もほかに比べるとしっかりしている。

リタ地区は、下町で家賃は安い(2DKの庭付き一軒家で350ドル)が断水が多く、治安もよくない。デラップ地区は、中心街で家賃が高く(2Kで700ドル、2DKで750ドルであり、部屋は狭く、一部屋がリタ地区の2分の1、ライロック地区の3分の1の広さである)、物件も少ない。ライロック地区は、水源に近く水の供給が比較的安定しており、ガードマンを配した住宅もある。外国人の多くは、ここに住んでいる。また最近スーパーが開店し、新しい住宅も次々に建設されている。家賃は2DKで800ドル、2LDKで1,200ドルである。

(2) ホテル事情

当地には6~7軒のホテルがあるが、実際はアパートであるものや電話帳に記載されていても実在しないものもある。また、離島には宿泊施設がないところが多いので、知り合いのついで、民家に宿泊させてもらう。

主なホテルは次のとおりである。

ロイヤル・ガーデン・ホテル P.O.Box 735

電話 247-3701 ファックス 625-3705

シングルが78ドル、ダブルが95ドル、スイートが103ドルで日本政府関係者は1割引になる。全室冷房、冷蔵庫、ケーブルテレビ、バス付きで、長期滞在可能である。

ホテル・ロバート・レーマーズ P.O.Box 1

電話 625-3250、625-3119 ファックス 625-5494

シングルが75ドル、ダブルが85ドルである。全室冷房、冷蔵庫、ケーブルテレビ、バス・シャワー付きで、長期滞在可能(費用は交渉次第)である。

アジリック・ホテル P.O.Box E

電話 625-3171 ファックス 625-3712

シングルが47ドル(1ヵ月700~800ドル)、ダブルが52ドル(1ヵ月900~950ドル)で、冷房、シャワー付きである。

(3) 住宅の探し方

貸家を取り扱っている斡旋業者はないので、知り合いなどを通じて探す。新聞(週1回発行)に広告が掲載されることもある。

(4) 住宅の選定上の留意点

住宅のある地区の治安・水の便などについて事情に詳しい人に説明を受けることをすすめる。盗難事件などが増えているので、フェンス・ガードマンの有無を確認

すること。

(5) 住宅の契約

政府が公務員用に借りる場合は、3ヵ月ごとに家賃を払うが、通常は1ヵ月ごとに払う。礼金1、敷金1のケースが多い。

個人的な契約が多いので、契約内容はまちまちである。また、契約書がない場合もあるが、外国人の居住する住宅のほとんどは契約書を備えている。契約の際、必要なものを要求し、文書にすることが望ましい。家屋・家具の修理などについても契約内容を詳しく吟味することをすすめる。

住宅によってはゴミの収集・警備のサービスが含まれていることもある。家具は、備え付けが多い。

(6) 電気、ガス、水道などの手続と管理

電気・水道・電話は、それぞれの公社からの請求で1ヵ月ごとに直接支払う。

(7) その他

特にない。

4. 医 療

4-1 赴任前の準備

(1) 予防接種

予防接種は義務づけられていないが、破傷風、A型・B型肝炎は受けることをすすめる。特に妊娠可能な女性は破傷風の予防接種を行なった方がよい。当地の妊婦には義務づけられているので、当地で予防接種が可能である。新生児や乳児に対しては、当地の保健所でポリオ、BCG、B型肝炎の予防接種が定期的に行なわれている。衛生面、技術面の問題はない。

(2) その他の準備

眼鏡やコンタクトレンズは当地での調達が可能なので、スペアは必ず持参した方がよい。老眼鏡はスーパーで調達可能ではあるが、専門店ではないので持参した方がよい。

歯科治療に関しては、日本で治療はできる限り行なった方がよい。しかし当地での治療も可能であり、技術面、衛生面とも問題はない。

4-2 医療事情

(1) 医療機関

病院は当地と、イバイにそれぞれ1つあり、その他の離島には、ヘルスアシスタントが診療するごく簡単な診療所が数カ所ずつあるのみである。

Majuro Hospital P.O. Box 16 TEL 625-3355、625-3399

診療科目は全般に及ぶ。フィリピン人医師が多い。入院可能であるが重症者、感染症患者で占められていることが多い。外来での診察に予約は不要である。

Ebeye Community Health Center P.O. Box 5659, Ebeye, Kwajalein
TEL 87-3365

診療科目は全般に及ぶが、専門性はマジュロ病院より低い。入院可能である。

(2) 緊急時の対応と措置

重症者、高度な手術を要する場合はハワイ、日本へ移送する。救急車として使用している車がマジュロ病院に1台あり利用できるが、自分で車を手配した方が早い。

離島では診療所で簡単な治療はできるが、緊急時は問題である。定期航空便を待てない場合は、飛行機をチャーターすることもある。

4-3 医薬品など

(1) 携行することが望ましい医薬品

常用薬は必要分を携行した方がよい。また、虫よけスプレー、虫さされの薬、整腸剤、湿布は入手がむずかしいので、携行した方がよい。

(2) 任国で調達できる医薬品

抗生物質、痛み止め、目薬、消毒薬などはアメリカ製の薬品を病院やスーパーで入手できる。病院では医師の処方せんが必要である。しかし、いずれの場合も種類はあまり多くはない。

(3) 任国で調達できる衛生用品

生理用品はスーパーで、包帯、ガーゼはスーパーや病院で入手できる。すべてアメリカ製品である。避妊具はスーパーで入手できるほか、病院ではエイズ防止、家

族計画のため無料で配布している。

(4) 医薬品を使用する場合の留意点

病院の薬局はほとんど問題ないが、スーパーの薬品は有効期限を確認する必要がある。

4-4 妊娠、出産、育児

(1) 妊娠した場合の対応

出産は当地でも可能である。緊急の場合は帝王切開も可能であり、未熟児に対してもある程度は対処できる。妊婦検診も行なわれており、技術面は日本と変わりはないが、習慣の違いによる衛生面、精神面の影響を考えると日本で出産することをすすめる。

なお、当地では日本のような完全看護ではなく、母親学級などもない。

(2) 出産後の対応

出産後、3日間入院し、退院4週間後に家族計画に関する講義が、6週間後に産後の検診がある。新生児に対しては、BCG、B型肝炎、ポリオの予防接種の後、生後3日目に異常がなければ退院となり、2週間後に検診が行なわれる。母子手帳はないが、イエローカードと呼ばれる予防接種の記録シートが渡される。

(3) 育 児

育児用品はスーパーで購入できる。おむつは紙おむつが主流であり、衣類もアメリカの既製服が安く購入できる。ミルクはアメリカ製と森永の韓国製が多く使用されている。そのほかベビーパウダー、ベビー石けん、哺乳瓶などの雑貨品はすべて輸入品である。

病気に対してほとんど対処できるが、入国前に検診を受け大きな問題がないか検査した方がよい。特に心臓関係の疾患には対処しにくい。日差しが強いので外出時には皮膚の保護に注意が必要である。

4-5 手 術

(1) 任国で可能な手術

産科手術、眼科手術、排膿切開術、下肢切断術、甲状腺摘出術、試験開腹術、ヘルニア切除術、盲腸切除術が可能である。

検査部門でも、組織切除術（バイオプシー）や内視鏡検査、エコー検査（超音波）は可能である。

手術水準は高い方といえるが、移動が可能であればアフターケアを考えると帰国することをすすめる。

(2) 手術設備の状況

麻酔では、全身・脊椎・局所が使われているが、人工呼吸器・人工心肺の設備はない。上記手術に関しての設備は申し分ない。手術部の機能統制はしっかりとされており、信頼性は高い。

入院などは、日本ほど待たされることはない。ただ、入院費は外国籍の場合、かなりの高額となる。（1日115ドル）

(3) その他の留意点

輸血が必要な場合、患者自身がドナー（供血者）をみつけないといけない。輸

血に際しての検査はきちんと行なわれているので安心してよい。(エイズなど)

食事は、病院から支給される。病院外から食事を差し入れする場合は、医師の承諾書が必要になる。

手術の場合、原則として立会いは認められないが、患者とのコミュニケーションがむずかしい場合(英語が話せない)は認められることがある。

入院の付添いは、患者がベッド上で安静にしていなければならない場合、必要である。患者が歩ける場合はその限りではない。

手術が必要になった場合、医師から説明とともに手術同意書が渡されサインを求められる。患者が20歳未満の場合や、自分でサインできない場合、その家族(親戚も含む)のサインが必要となる。

4.6 任国でよくかかる傷病

(1) 一般の疾病

インフルエンザ、かぜ、はしか、風疹、水痘、下痢(寄生虫症のこともある)など程度の軽い疾病が多い。肺炎で入院する人もいるが、それほど深刻なものではない。主な寄生虫としては、回虫、鞭虫、ランブル鞭毛虫、大腸アメーバなどがあげられる。

(2) 風土病・伝染病

特にこれといった風土病はない。結核、B型肝炎、梅毒をはじめとする性病患者は比較的多くみられる。エイズ患者も近年増え始めた。デング熱、フィラリア検査もされることはあるが、陽性となることはほとんどない。マラリアはない。

(3) 有害動物、病害虫

蚊、ハエ、クモ、ゴキブリ、アリは非常に多いが、毒性のあるものはめったにない。ネズミ、ヤモリも多い。ヘビの生息は見られない。

4.7 保健衛生

(1) 飲料水

水道水を用いる場合は、20分以上煮沸した方がよいとされている。雨水をためるタンクを備えている家庭もあるが、この水も同様に扱うことをすすめる。生水の飲用は避けた方がよい。飲料用ミネラルウォーターは配達してもらえるほか、市内のスーパーでも買うことができる。

(2) 濾過器の入手方法

当地での入手は困難なので、必要な場合には日本から持参すべきである。その際、当地の電源(110ボルト単相、60オーム)を考慮すること。

(3) その他の留意点

冷房がきき過ぎるぐらいなので、外気との気温差のために体調を崩しやすい。薄手のカーディガンを持ち歩くようにしたい。

5. 教育

5-1 教育事情

(1) 一般事情

アメリカの教育制度をとり入れている。日本の小学校に相当するエレメンタリースクールは7～8年、ハイスクールは4年で卒業する。私立のアサンプション高校は8学年をエレメンタリースクールに含んでいるが、公立ではミドルスクールと呼ばれる学校に1年通うことになる。

(2) 日本人学校

日本人学校はない。日本人子弟は当地の公立および私立校に通っている。

(3) 現地校、外国人学校

インターナショナルスクールはない。

外国人子女が通っている当地校は、つぎのとおりである。なお、日本人子弟に関してはコープ小学校とアサンプション小学校への通学者が多い。

・小学校

コープ小学校

P.O. Box 81 TEL 625-3144 FAX 625-3719

ライロック小学校

P.O. Box 796 TEL 247-3752

アサンプション小学校

P.O. Box 8 TEL 625-5613

リタ小学校

P.O. Box 3 TEL 625-3555

・高校

公立マーシャル高校

P.O. Box 4 TEL 625-3255

私立アサンプション高校

P.O. Box TEL 625-5613

・大学

マーシャル短大

P.O. Box 1258 TEL 625-3394

(4) 幼稚園

外国人子女が通っている当地の幼稚園は、次のとおりである。

コープ幼稚園

P.O. Box 81 TEL 625-3144

アサンプション幼稚園

P.O. Box 8 TEL 625-5613

セブンスデイドペンティスト幼稚園

P.O. Box I TEL 625-3367

5-2 入学手続きおよび授業料

(1) 日本人学校

該当情報なし

(2) 現地校、外国人学校

学期は8月開始、5月終了の2学期制である。休校日は祝祭日のほか、クリスマスや感謝祭、イースターにまとまった休みがある。

公立小学校への手続きは、出生証明書を持参のうえ、保護者が直接学校で手続を行なう。費用は年間10ドルである。スクールバスがあり、片道5セントである。

私立小学校（幼稚園を含む）への入学手続などは、次のとおりである。

アサンプション小学校

入学手続	試験選考
入学金	50ドル
授業料	610ドル（昼食込み）
交通手段	タクシーおよび保護者による送迎

コープ小学校

入学手続	定員あき次第
入学金	50ドル
授業料	1,300ドル（昼食込み）
交通手段	タクシーおよび保護者による送迎

セブンデイズ小学校

入学手続	定員あき次第
入学金	40ドル
授業料	600ドル（昼食込）
交通手段	タクシーおよび保護者による送迎

公立マーシャル高校は毎年夏に入学試験を行なう。入学金、授業料は無料であるが、毎年登録料として20ドル必要である。スクールバスがあり、無料である。

私立高校への入学手続などは、次のとおりである。

アサンプション高校

入学手続	試験選考
入学金	50ドル
授業料	840ドル（昼食込み）
交通手段	タクシー

セブンデイズ高校

入学手続	試験選考
入学金	40ドル
授業料	720ドル（昼食込み）
交通手段	タクシー

マーシャル短大への入学手続には高校の成績証明書、あるいは統一テストのスコアが必要である。入学試験は入学予定の前学期中に実施される。入学金は5ドルだが、ほかに登録料15ドルなど、約40ドルの諸料金が必要である。授業料は1学期

1科目ごとに60ドルである。学期は大きく分けて秋学期（8月中旬～12月中旬）、春学期（1月中旬～5月中旬）の2学期制であるが、短期の夏学期が6月上旬～7月下旬にある。

(3) 幼稚園

コープ幼稚園の場合、あきがあれば入園でき、入園料は50ドルである。料金は月に80ドルで、保護者が送迎する。

5-3 教育関係施設

(1) 図書館

アレレ図書館は当地在住であれば誰でも利用でき、蔵書も豊富である。開館時間は、月～木曜日が10:00～18:00、金曜日が10:00～17:00、土曜日が9:00～13:00である。

(2) スポーツ施設

テニスコートが2面、ベンチ、バックネットを備えた野球場がひとつ、バスケットコートが約10あり、あいていればいつでも無料で利用できる。

5-4 家庭学習

(1) 家庭教師

英語や現地語、ピアノの家庭教師はいない。

当地の小・中学生を対象とした塾のようなものはあるが、邦人子女を対象とした家庭教師はいない。

(2) 通信教育

海外子女教育振興財団（電話 03-3580-2827、03-3503-7238）が行なっているものがある。小・中学生対象で、毎月テキスト1冊（主要4教科・50ページ程度）と添削テストが送付される。

なお、備考：当該学年の教科書が無料配布される。

(3) 携行した方がよい家庭用学習教材

当地では日本人子弟向けの学習教材はほぼ皆無であるので、学年・能力・在留期間に応じた教材を携行すべきである。

6. 家庭の使用人

6-1 運転手

(1) 雇用

島が小さいので一般に運転手を雇うことはないが、希望すれば可能である。

(2) 日常管理

該当情報なし。

(3) 教育指導

該当情報なし。

(4) その他の留意点

該当情報なし。

6-2 メイド／サーバント

(1) 仕事の種類と人数

家事全般の手伝いをするメイドを雇うことができるが、パートが多い。仕事は主に掃除、洗濯、皿洗いで、料理のできる人を探すのはむずかしい。

(2) 雇用

知り合いなどを通して紹介してもらった方がよい。マーシャル人、キリバス人、フィリピン人などを雇用することができる。外国人を雇用する時は、滞在許可証を持っているか確認する必要がある。時給は2ドル程度である。

(3) 日常管理

大切なものは注意をひかないところに保管した方がよい。

6-3 庭師、ガードマンなどの雇用

(1) 雇用

個人で庭師、ガードマンを雇用する人は少ない。大きなアパート、事務所には庭師、夜間のガードマンがついていることが多い。

7. 交通事情

7-1 交通手段

(1) 一般事情

当国の一般交通手段は、タクシーと国内航空のみである。

タクシーにはセダン型とバス型の2種類があるが、目的地へ早く行きたい時は、セダン型をすすめる。昼食時間（11:00～13:30）と夕方（16:00～18:00）はたいへん込むので、利用は避けた方がよい。空港～リタは毎日主要道路を走っており（7:00～23:00頃）人々の重要な足となっている。また、ローラ～RREは、日曜日を除いて9:00～22:00頃まで走っている。

タクシーには停留所などはなく、走行中のタクシーを止める。下車する時は、目的地の近くになったら運転手に地名を告げるか、地名がわからなければ、目的地で「ストップ」もしくは「ジャカネ（そこです）」といえど止まってくれる。

料金は、通常はセダン型が30セント、バス型が25セントである。ただし、ナカソネ橋が境界になっており、これを越えると空港（駐車場まで）～リタが2ドル、空港手前（駐車場まで行かない）～リタが1ドル、RRE～ローラが1.5ドルとなる。

国内航空は Air Marshall Islands (AMI) が、各離島へ運航している。時刻表などは、毎週木曜日に発売されている新聞『マーシャル諸島ジャーナル』に掲載されている。

(2) 自家用車を利用する場合

当地は主要道路が1本縦断しており単純である。

道路にサンゴの土が使われているため、降雨後は大きな穴がたくさんみられるので注意が必要である。また、風の強い日は、走行中にヤシの実が落ちてきてフロントガラスが割れたりすることもある。

子供と犬の飛び出しが非常に多い。（ブタが通っていることもある）

ガソリンスタンドは約10カ所あり、1ガロン2ドル程度である。

(3) レンタカーなどを利用する場合

レンタカーを扱う会社は5件あり、日本の免許証があれば利用できる。料金は、1日50～60ドルである。

Deluxe CaRs（空港内） TEL 625-3665

Dar CaRs（RREの裏） TEL 625-3174

Hartz CaRs（空港内） TEL 247-3691

RRE CaRs（ホテル・ロバート・レーマーズのラウンジ） TEL 625-3250

Royal CaRs（ロイヤル・ガーデン・ホテルのラウンジ） TEL 247-3702

(4) 道路地図

主要道路は1本のみのなので、地図はほとんど必要ない。

7-2 交通事故

(1) 対処方法

負傷者・死者・100ドル以上の損害を出した場合、地方警察（電話 625-3128、625-3415）か国家警察（電話 625-3666、625-3580、625-3222）へ届ける。あとは警

察の指示に従う。

(2) 救急病院

マジュロ病院（電話 625-3355、625-4144）は救急外来も持つ総合病院なので、ここに連絡する。

(3) 盗 難

警察に連絡する。警察がくるまでに時刻や盗品の種類など状況をまとめておく。かなり詳しく聞かれる。状況によっては（保険の問題など）レポートの提出を求められることもある。

7-3 交通違反

(1) 交通法規

右側通行で車は左ハンドルである。特別変わった法規はなく、日本の法規を守って運転していれば問題はない。

最高速度はスクールゾーンで15マイル、市街地で25マイル、その他は40マイルである。スクールバスが停車して生徒が乗り降りしている時は、スクールバスの後ろの車および対向車はスクールバスを追い越せず、生徒の乗降が終わるまで停止していなければならない。

(2) 対処方法

日本と同様の運転を行なっていれば検挙されることはまずないが、事故や違反に対しては罰金が科せられる。

7-4 車の修理

(1) 部 品

車はほとんどが日本車で、トヨタ、ニッサン、マツダ、スズキ、ダイハツ、三菱などの販売店があり、部品のとり寄せもできる。

一般的な消耗部品はストックがあるが、ふだん必要としない部品はとり寄せに1ヵ月程度かかる。

(2) 修理工場

上記販売店以外にも修理工場が数軒ある。エンジンの分解なども行なっており、修理技術に問題はない。

8. 通信

8-1 電 話

(1) 一般事情

公衆電話は空港、ストアなど数カ所にしかないが、一般家庭にはほとんど普及しており利用頻度も高い。自宅に電話をひく時は、電話局へ行き申請すればすぐにつけてくれる。費用は30ドルで、1カ月の基本料金は6ドルである。

(2) 国内電話

当地内は無料であるが、他島にかける時は有料になる。例えば、クワジェリン環礁イバイ島にかけると、1分間75セントになる。

公衆電話を使用する時は、当地内で1回25セントかかる。

通信状況はよく、不通になることはまずない。

(3) 国際電話

電話局からかける方法と自宅からかける方法とがある。自宅から国際電話をかける時は、電話局の交換を経由してかけるが、最近通話料金を滞納する人が多いとのことで非常につながりにくい。ただし、100ドル預け入れると交換を経由しなくてもかけられる。

料金は地域によって異なるが、日本、オーストラリアなどは1分間3ドルである。多少雑音が入ることもあるが、時間によってかかりにくいなどの問題はない。

8-2 電 信

(1) テレックス

該当情報なし。

(2) ファクシミリ

電話局で送信できるが、ファックスをひいている事務所は多い。ファックスをひくには電話局に申請すればよい。

(3) 電 報

該当情報なし。

8-3 郵 便

(1) 一般事情

封書、はがきとも当地から日本へは約2週間、日本からも同様である。小包は航空便で2~5週間程度かかる。郵便物が途中でなくなるようなことはまずない。

郵便は自宅に配達されるのではなく、私書箱気付である。私書箱は年間7ドルで開設できるが現在、数に余裕がなく待たされる可能性がある。

中央郵便局 電話 625-3221

(2) 課税

個人消費物に関して課税されることはない。

9. マスコミ

9-1 新聞

(1) 主な日刊紙

国内発行の『マーシャル諸島ジャーナル』（毎週木曜日発行）がある。英語およびマーシャル語で書かれており、1部50セントで主要スーパーや市内のミニショップで購入できる。

また、グアムで発行されている日刊紙『パシフィック・デイリー・ニュース』が空輸で週3回入ってくる。1部60セントでRREで購入できる。

(2) 本邦日刊紙

OCS サービスはないので日本へ申し込む。通常、約1週間で届く。

(3) 欧米紙

当地で購入できる主要欧米紙はない。

9-2 ラジオ

(1) ラジオ放送局

FM局 V7SW は 99.95 ヘルツで音楽を中心に 24 時間放送している。教会経営の WSZF は宗教関係の番組だが、VOA、BBC、ラジオ・オーストラリアのニュースも流している。周波数 104.1 ヘルツで、月～土曜日は 5:45～23:00、日曜日は 6:45 から放送している。

AM放送局は2局ある。国営の V7AB ラジオ・マーシャルは周波数 1098 ヘルツで 6:00～0:00、V7RR 局は周波数 1557 ヘルツで 24 時間放送している。

(2) ラジオジャパン

東南アジア向け、アジア大陸向け、大洋州向け周波数のいずれも受信可能である。受信状態は良好である。

(3) 任国で聴取可能なその他の外国放送

VOA、ラジオ・オーストラリアの聴取が可能である。BBCの聴取も可能だが、受信状態はよくない。

9-3 テレビ

(1) テレビ放送局

ケーブルテレビ局が1局あり、設置料は30ドルである。月額約30ドルで13チャンネル受信できる。アメリカの主要テレビ局（例えばABC、CBSなど）の録画番組を1週遅れで放送しているが、CNNだけは生放送である。ときどきローカル番組（イベントを録画したものなど）も放送される。映像、音声の質はきわめて悪い。

(2) テレビ受信

NTSC方式である。日本からテレビ受像機を持参するのは避けた方がよい。（持参する場合はビデオデッキも持参した方がよい）

10. 教養、娯楽、趣味、スポーツ

10-1 映画、演劇

(1) 映画館

ウリガ地区に1館あり、20:00から2本立てで1回、上映している。内容は毎日変わり、その日の朝、映画館前の掲示板にポスターが張られている。

(2) 劇場

該当情報なし。

10-2 出版・書籍

(1) 一般事情

週刊紙のほか、当国の昔話を編集した書籍がある。

(2) 書店

洋書はR R EやGibson'sで入手可能である。日本書籍の購入は不可能である。

10-3 語学学習

(1) 語学学習施設

マーシャル高校(MIHS)――学校側とは一切関係なく、個人との契約でマーシャル語を学習できる。入校は随時で、直接講師に依頼する。授業料は1時間5ドルで週1回、授業は英語で進められる。

アレレ美術館(ウリガ地区 電話 625-3550、625-3372)――現在は行なわれていないが、人数が集まればマーシャル語のクラスが開講される。

アサンプション高校――学校側とは関係なく、個人との契約で英語を学習できるが、現在は講師がおらず行なわれていない。同校の教師に知り合いがいれば紹介してもらうことも可能である。授業料の相場は1時間5ドルである。個人授業も可能である。

(2) 家庭教師

該当情報なし。

10-4 文化活動、文化施設

(1) 一般事情

アレレ美術館があり、無料で入場できる。開館日は月～水曜日と金～土曜日である。

(2) 日本・任国友好協会などの有無と活動の内容

当地と奈良の河会町が姉妹都市になっている

(3) その他の文化活動、文化施設

該当情報なし。

10-5 写真、ビデオ

(1) 写真

コダック、フジカラーのフィルムが多い。感度400や200など日本と変わらないものが購入できる。価格は1本5~10ドル前後である。

DPEサービスは当地ではエースハードウェアという日曜雑貨専門店で1軒だけある。プリントはよい時もあれば悪い時もあり、確実性に欠ける。価格は1本の現像が5ドル前後である。多くの方はアメリカの写真センターにフィルムの現像、焼き

増しを航空郵便で注文している。値段は、24枚撮りフィルム1本1.99ドル、焼き増し1枚25～30セントである。

(2) ビデオセット

日本のメーカーのビデオデッキが1台400～600ドルで普及しており購入できるが、メンテナンスはむずかしい。受像方式はNTSC方式、VHSである。ビデオカメラも購入可能だが、型が古くメンテナンスもむずかしい。MJCCという日本の企業があり、日本製品の販売のほか、日本に送りメンテナンスをしたり部品をとり寄せたりしてくれる。

ビデオテープは洋画などは20ドル以下で、生テープは4ドル前後で購入できる。メーカーはSONYやFUJIなど日本のものも多くある。レンタルビデオショップは当地に6軒ある。

(3) ミュージックテープ

マーシャリーズソングと洋楽のテープが1本10ドル前後で、古いものは5ドル前後で販売されている。日本のテープはほとんど入手不可能である。

10-6 音楽鑑賞、演奏、民族楽器

(1) 音楽会、コンサート

ホールなどはないが、野外で音楽会のようなものが行なわれている。各高校・大学主催のものが多く（開校記念など）、そのつどポスターが張られる。クリスマスなどは、各教会で催し物がある。

(2) コーラス、演奏グループ

各教会でコーラス（聖歌）をやっており、参加は可能である。

演奏グループは5つほどあり、R R E、Gibson's、Momotaroでテープが売られている。

(3) ピアノなど

持参することは可能だが、専門の調律師などはおらずアフターケアがむずかしいので、避けた方がよい。

(4) レコード

CDは、R R E、Gibson's、Midtown、Momotaroで購入できる。

(5) 民族楽器

該当情報なし。

(6) その他の楽器

該当情報なし。

10-7 手芸、絵画、美術工芸

(1) 手 芸

毛糸、生地、糸、針などはスーパーやストアで購入できる。当地の人はパンダナスやヤシの葉を使って、かごやシート、髪飾り、バッグなどをつくって民芸品として販売している。ミシンを使った洋裁もよく行なわれている。特に趣味とする人は、材料など日本から持参した方がよい。

(2) 絵画、美術工芸

油絵などの道具は売られておらず、専門のギャラリーなどもない。ときどきアレ

レ美術館で展示が行なわれる程度である。

絵画を趣味とする人は材料などを日本から持参した方がよい。子供向きには、絵の具やクレパス、クレヨン、画用紙などをエースハードウエアなどで購入することができる。

木で作ったサメの置物や船、貝やヤシの実でつくったコースター、飾りなどがある。

10-8 趣味

(1) 園芸

種苗、鉢植え、肥料などはエースハードウエアで購入できる。また、日本から、三つ葉、パセリなどちょっとした種を持参すれば、鉢植えなどは可能である。しかし、土地や気候の問題から植物の栽培はむずかしい。

(2) 釣り

外海ではボートや船でトローリングをしてマグロなどを、内海ではボートやカヌーなどでリーフフィッシュを釣る。ボートはRREや水産省で1回200~300ドルで借りられる。釣り道具はエースハードウエアで購入できる。

10-9 娯楽、遊戯など

(1) 娯楽、遊戯、ゲーム

1994年にボウリング場ができ、最近の主流となっている。遊戯施設は特になく、ボウリング場と小さな店の片隅にゲームコーナーがある。

(2) 芸能興行

遊園地やレジャーランドはない。

10-10 スポーツ

(1) ゴルフ

該当情報なし。

(2) テニス

ウリガ地区にテニスコートが2面あり、無料で利用できる。(ロングアイランド地区にも建設中) ラケットやボールはエースハードウエアで購入できるが、あまり品質はよくない。

(3) 水泳

プールはない。内海、外海とどこでも泳げるが、ところによっては所有者がいるので許可をとる必要がある。ローラ地区のビーチに行くには1人1ドル払わなければならない。

ダイビングショップで、200ドル前後でスキューバダイブの講習を受けることができる。

(4) その他のスポーツ、用具、ウエア

盛んなスポーツはバスケットボール、バレーボール、スキューバダイブ、野球である。バスケットコートは学校所有のものと、国有のものがある。照明付きのコートはデラップ地区に1面ある。バレーボールは各家庭の庭や広場にネットを張って行なわれている。野球はローラ村にある当地唯一の草野球場で行なわれる。広い土地があまりないので、サッカー、ラグビーなどはできない。

(5) スポーツクラブなど

ダウンタウン地区にスキューバダイブクラブがある。

ダイブ・マジュロ 電話 625-5267 テレックス 625-5268

また、ナムキというデラップにある施設にスポーツジムがあり、1回1時間1.5ドル、月20ドルで毎日トレーニングを受講できる。内容はエアロビクス、ウエートリフティングなどである。

10-11 子供の遊び

アジリタケ地区にピースパーク公園がある。また、ウリガ地区やア Sampson 高校の隣にも公園がある。そのほか広場がところどころにある。

ボール遊び、特にバスケットボールがもっとも盛んである。野球やバレーボールも小さい頃からやっている。おはじき・お手玉に似た遊びもある。ほぼ日本と変わらないが、使用する道具が石だったり少し異なる。

娯楽用品・おもちゃなどは R R E、Gibson's、エースハードウェアに豊富にある。

なお、土地が狭く、広場が道路に近いことが多いので注意が必要である。また、当地の子供は石を使う（投石など）ので注意してほしい。

11. その他のサービス

11-1 金融機関

銀行の営業時間は、月～木曜日が10:00～15:00、金曜日が10:00～18:00である。口座を閉鎖する時は銀行で諸手続をするが、口座開設後90日以内に閉鎖すると、25ドル課される。

Bank of Hawaii (デラップ) ー口座の開設には身分証明書 (IDカード、パスポートなど) と200ドルが必要である。

Bank of Guam (ウリガ) ー口座の開設には身分証明書と50ドルが必要である。

Bank of Marshall Islands (ウリガ) ー口座の開設には身分証明書と50ドルが必要である。

11-2 コンピュータ

コンピュータを扱う会社は2社あるが、会社にはパソコン、周辺機器をおいておらず、ホノルルなどへ発注し、とり寄せることとなる。修理も同様に、海外に送付して修理する。消耗品は購入できるが、ないものはとり寄せとなる。なお、アップルコンピュータのディーラーが1社ある。

11-3 美容院

美容院、理髪店は3店ある。料金は、例えばカット10ドル、パーマ45ドル、シャンプー6ドルである。美容・理髪用品はアメリカ製が入手できる。特定の製品を使用しているならば、持参した方がよい。

12. 観 光

12-1 地方旅行上の留意点

外国人の国内旅行に関して必要な手続はない。まれに盗難事件などが発生するが、命にかかわる事件などはまったくない。

12-2 主要観光地・保養地ガイド

離島には電気・水道がなく、今なお昔ながらの自給自足の生活を送っているところが多い。各離島においてマリンスポーツが楽しめる。ただし、必要な機材はすべて当地より携行しなければならない。船舶を利用する場合は現地に着いてからの交渉になる。他の交通手段としては船舶もあるが、客船ではなくコプラ輸送船である。直接交渉して甲板に乗ることができる。

当国には第2次世界大戦中、日本軍が駐屯しており、ジャルート環礁、ウオッチェ環礁、ミリ環礁、マロエラップ環礁において旧日本軍の遺物を見ることができ

る。
ミリ環礁、キリ島などに小規模な宿泊施設があるが、他の離島へ旅行する場合は、民家に宿泊させてもらうか、野宿することになる。

12-3 旅 行

(1) 自動車

離島は未舗装の道で、自動車旅行には適さない。(自動車自体が存在しない離島が多い)

(2) バス

ない。

(3) 鉄 道

ない。

(4) 航空機

AMIが当地より各離島へ週1~2便、運航している。

航空券の予約・購入については、直接AMIの事務所で行なう方法と、旅行代理店を通じる方法とがある。予約確認時点から出発3日前までに現金などで支払う。

12-4 旅行代理店

マ-シャル・アイランズ・トラベル・エージェンシー

電話 625-3570 ファックス 625-3870

ロイヤル・トラベル・エージェンシー

625-5137、625-5138

親切に対応してくれるが、予約確認ができるまで何度も電話をかけるか、足を運ぶ必要がある。

12-5 ホテルなど宿泊施設の手配

ミリ環礁、キリ島の場合――当地でミリ環礁、キリ島に知り合いを持つ人を見つけ、紹介状を書いてもらう。無理であれば、現地到着後、直接交渉する。

その他の離島の場合――AMIの事務所、あるいは旅行代理店で離島へのつてがあれば紹介してくれる場合がある。無理であれば離島に知り合いを持つ人を見つけ、紹介状を書いてもらう。それもできなければ現地到着後、直接交渉する。

クワジェリン環礁、イバイ島を除き離島には電話がないため、ほとんどの場合、現地到着後の交渉にならざるを得ない。だが、ほぼ100%の割で受け入れてくれる。

13. 治安、緊急時の心得

13-1 暴動、クーデターなど

(1) 緊急時の連絡

該当情報なし。

13-2 強盗、盗難

(1) 一般的治安状況

日本よりもよく、日本人が強盗、盗難にあったことはない。しかし、盗難にあわないよう、日頃から鍵をかけておくようにすること。当地は治安はよい方なので、鍵をかけておけばまずとられない。ただし車のなかには貴重品はおかない方がよい。

(2) 防犯対策

ガードマンを雇用したり、犬を飼ったり、鉄格子や警報装置を設置する必要はなく、日本と同程度の防犯をしていれば安全である。

(3) 被害時の心得

警察へ連絡する。

13-3 火災、風水害、地震

(1) 一般的災害発生状況

高潮による床上浸水などの被害が時々ある。台風、津波などによる大きな被害は頻度が低い。

天気予報はラジオで流されるほか、ウエザー・ステーションで入手できる。また電話625-3076番で海外の天気予報も聞くことができるが、1日遅れの情報であることも多い。

(2) 防災対策

防災施設などはない。

缶詰、カンパンなどの備蓄をしたり、物品保険、火災保険に加入しておく。

(3) 被災時の心得

警察へ連絡する。

14. 出入国手続および帰国手続

14-1 入国時

(1) 空港施設概要

該当情報なし。

(2) 入国手続書類

機内では入国カードと税関申告書が配られる。

ビザの申請に必要なものは、パスポートサイズの写真2枚、パスポート、25ドル（ただし公的目的での入国には不要）である。

入国後の外国人登録（滞在が1年以上の場合で、1年ごとに書き替えが必要）に必要なものは、パスポートサイズの写真2枚、パスポート、100ドル（ただし、当国政府との契約による滞在には不要）である。

再入国については、入国管理局で入国許可証などの書類をあらかじめ作成してもらう。

(3) 入国審査

通常3ヵ月のビザが与えられる。

(4) 税関検査

酒類、タバコの持ち込み免税限度は日本と同じである。生ものの持ち込みは原則として禁止されている。

(5) 空港内での留意点

盗難などの被害はほとんどない。

(6) 空港からのトランスポーターション

ホテルの送迎バス（無料）、レンタカーが一般的である。タクシーもあるが、つかまらないこともあるので、知人がいれば空港までの出迎えを頼んだ方が無難である。

(7) その他の留意点

空港内に銀行はない。

JICA関係者は、あらかじめ在日マーシャル諸島大使館で手続してくることが望ましい。

14-2 出国時

(1) 出国時の概要

搭乗手続の際、空港使用税15ドルを支払う。託送荷物は40キログラムまでは無料である。

(2) 出国手続上の留意点

特にない。

14-3 帰国手続

(1) 帰国時に必要な事務手続

電気・水道・電話ともに各公社に通知し、精算する。処理に時間を要することも十分にあり得るので、早めに（遅くとも1ヵ月前）通知することが必要である。

(2) 車の処分

特別な業者はいないので、個人的に買い手をみつけるしかない。

車両登録証に譲渡の欄があるので記入し、国家警察に届け出る。

(3) 家財道具の処分

特別な業者はいない。引っ越し前に個人でヤード・セールを開いているのをみかける。新聞などにヤード・セールの広告を出すこともできる。

(4) 住宅の明け渡し

帰国の3ヵ月前には大家に通知する。

(5) 外貨持出し規制

ない。

15. 私財の輸送、引き取り、購入

15-1 家財道具

(1) 輸送業者

船便については、2業者あり、荷物が積まれた船会社によって扱う業者が違ってくる。

Marshalls Transportation Agency (Kyowa Shipping Line など)

TEL 625-3691、625-3321 FAX 625-5383

Robert Reimers Enterprises INC (Matson、NYK など)

TEL 625-3250、625-3119 FAX 625-3505

また、家財道具が大きな場合、輸送業者を通して港から家まで運んでもらうことができる。料金は大きさによって違うが200~300ドルぐらいである。

Majuro Stevedore & Terminal Co.Inc.

TEL 625-3238、625-3369 FAX 625-3863

航空便については、AMI、Continental Air Micronesiaともに空港にある事務所に取りに行く。

(2) 輸入手続

インボイス、または家財道具の場合は内容証明と、航空あるいは船積み貨物受領証を持って大蔵省へ行き、輸入申請書に記入し税金を支払う。(家財道具は10%、自動車類は20%ぐらい) それを持って上記の業者(船、航空会社)へ行き荷物を引き取る。ただ船便の場合、1立方メートルにつき約1ドルの港使用料を運輸省へ支払わなくてはならない。

(3) 家財道具の購入

種類は限られるが、たいていのものは当地で購入できる。

15-2 自動車

(1) 一般状況

・輸入規制、車種および排気量規制はない。ただし、右ハンドルは違法である。

(2) 輸入手続

輸入を請け負っている業者がいくつかあるのでそこを通すか、個人で手続する。輸入税は購入価格の20%である。

潮風のためにさびやすいので、新車の場合はさび止めの処置を依頼することが必要である。

(3) 任国での購入

種類も限られ割高になるが、新車、中古車ともに購入可能である。あるいは個人的に譲り受ける方法もある。

(4) 自動車登録

保険に加入し、国家警察で車両のチェックを受ける。不備がなければその場で登録証をつくってくれる。登録の更新は毎年1月に実施される。手数料25ドルに加え、ステッカー代として10ドルが必要である。

(5) 免許証取得

日本の運転免許証を持参し、国家警察へ行く。手数料は写真代込みで15ドルである。

当地で運転免許証を取得する際は、英語の筆記試験と実技試験がある。試験対策用の本はR R EやGibson'sで購入できる。

(6) 保険、税金

保険会社は数社ある。

16. 社交

16-1 風俗習慣

女性は、肩・太ももをみせるのは避ける。海に出る時もTシャツ・短パンを着用するなど配慮する。

16-2 パーティでの留意点

マーシャリーズタイムと呼ばれるように、予定時間より1~2時間は遅れるので考慮する。

誕生日・送別会には最後に1ドル渡す習慣があるので、用意しておく必要がある。

パーティはポットラック（持ち寄り）形式が多く、すしを持っていくとたいへん喜ばれる。

16-3 来客時の留意点

該当情報なし。

16-4 訪問時の留意点

該当情報なし。

16-5 禁止されている言動

頭をたたくことは避けた方がよい。

17. 任国官公庁

執務時間は8:00~17:00である。

司法長官

P.O. Box 890, Majuro TEL 625-5244~5 FAX 625-5218

会計監査局

P.O. Box 245, Majuro TEL 625-3390 FAX 625-5135

ビキニ・キリ・エジット地方自治省

P.O. Box 1096, Majuro TEL 625-3177 FAX 625-3330

エボン地方自治省 電話 625-3340

エニウェトク地方自治政府

P.O. Box 1199, Majuro TEL 625-3296

環境保護局

P.O. Box 1322, Majuro TEL 625-3035、625-5203 FAX 625-3854

環境放射線調査局

P.O. Box 1808, Majuro TEL 625-3796 FAX 625-3854

高等裁判所

P.O. Box 378, Majuro TEL 625-3201、625-3248、625-3297

FAX 625-3323

マジユロ地方自治省

P.O. Box 796, Majuro TEL 625-3415、625-3128 FAX 625-3757

マーシャル開発局

P.O. Box 1185, Majuro TEL 625-3417 FAX 625-3158

マーシャル海洋資源局

P.O. Box 860, Majuro TEL 625-3262 FAX 625-5447

社会保険局

P.O. Box 175, Majuro TEL 625-3101~3 FAX 625-3819

教育省

P.O. Box 3, Majuro TEL 625-3698 FAX 625-3861

大蔵省

P.O. Box D, Majuro TEL 625-3320 FAX 625-3607

外務省

P.O. Box 1349, Majuro TEL 625-3181 FAX 625-3685

社会福祉省

P.O. Box 1138, Majuro TEL 625-5034

運輸・通信省

P.O. Box 1079, Majuro

保健省

P.O. Box 16, Majuro

内務省

P.O. Box 18, Majuro TEL 625-3240

法務省 電話 625-3062

公共事業省

P.O. Box 3059, Majuro

資源開発省

P.O. Box 1727, Majuro TEL 625-3206 FAX 625-5126

18. 在外日本関係機関など

JOCVマーシャル事務所

住 所 P.O. Box F, Majuro

電 話 625-5437～8

ファックス 625-5439

執務時間 9:00～17:00

19. 地方都市

現在、イバイに水産関係のJICA短期派遣専門家が1人派遣されている。

任国情報をご利用の皆様へ

この任国情報は、国際協力のために赴任される JICA 長期派遣専門家、JICA 職員等の方々に、任国での生活上必要な最新の情報を提供する目的で作成されました。

本書の原データは国際協力総合研修所内のデータベースに蓄積されており、新しいデータが入手され次第、逐次更新できるシステムにしております。

現在までに、下記の国々について任国情報が整備されております。なお、政府技術協力のために赴任する JICA 役職員および派遣専門家は、技術協力協定や要請文書などの外交関係により、任国への入国および滞在にあたって特別の条件が付され、一定の義務が免除されるなどの特権が付与されています。本情報はこれらの条件に基づいた赴任マニュアルです。したがってご利用は JICA の用務による業務渡航者に限らせていただいております。

また、本情報は外国人専門家という特殊なステイタスによる生活ガイドであって、それぞれの国の人々の一般的な暮らしを紹介するものではありません。各国の一般的な各種事情については、JICA 図書館に多数資料をそろえておりますので合わせてご利用ください。

-----アジア地域-----

1. バングラデシュ
2. ブータン
3. ブルネイ
4. カンボディア
5. 中華人民共和国
6. インド
7. インドネシア
(ジャカルタ、バンドン、ジョグジャカルタ、メダン)
8. 大韓民国
9. ラオス
10. マレーシア
11. ミャンマー
12. ネパール
13. パキスタン
14. フィリピン
15. シンガポール
16. スリ・ランカ
17. タイ (バンコク、チェンマイ、コンケン)
18. ヴイエトナム

-----中近東地域-----

1. アルジェリア
2. バハレーン
3. エジプト
4. イラン
5. ジョルダン
6. クウェイト
7. モロッコ
8. オマーン
9. カタル
10. サウディ・アラビア
11. スーダン
12. シリア
13. テュニジア
14. トルコ (アンカラ、イスタンブール)
15. アラブ首長国連邦 (ドバイ、アブ・ダビ、ドバイ)
16. イエメン (サナ)

-----太平洋地域-----

1. フィジー
2. キリバス
3. ミクロネシア
4. パラオ
5. パプア・ニューギニア
6. ソロモン諸島
7. ヴァヌアツ
8. 西サモア

-----欧州地域-----

1. カザフスタン
2. キルギスタン
3. ポーランド
4. タジキスタン
5. トルクメニスタン
6. ウズベキスタン
7. ハンガリー

-----アフリカ地域-----

1. ベナン
2. ブルンディ
3. カメルーン
4. カーボ・ヴェルデ
5. コモロ
6. エチオピア
7. ガンビア
8. ガーナ
9. ギニア
10. コートジボアール
11. ケニア
12. リベリア
13. マダガスカル (アンタナナリボ、ディエゴ・スアレ)
14. マラウイ
15. モーリシャス
16. モザンビーク
17. ニジェール
18. ナイジェリア
19. ルワンダ
20. サントメ・プリンシペ
21. セネガル
22. セイシエル
23. ソマリア
24. タンザニア (ダルエスサラーム、ザンジバル)
25. トーゴ
26. ザイール
27. ザンビア
28. ジンバブエ
29. スワジランド

-----中南米地域-----

1. アルゼンティン
2. ボリビア (ラ・パス、サンタクルス)
3. ブラジル (ブラジリア、サンパウロ、リオデジャネイロ、ポルトアレグレ、ベレーン)
4. チリ
5. コロンビア
6. コスタ・リカ
7. ドミニカ共和国
8. エクアドル
9. グレナダ
10. グアテマラ
11. ホンデュラス
12. メキシコ
13. パナマ
14. パラグアイ (アスンシオン、エンカクシオン)
15. ペルー
16. セント・ルシア
17. トリニダード・トバゴ
18. ウルグアイ
19. ヴェネズエラ

「任国情報（マーシャル諸島）1995年版」

平成7年3月20日発行

編集・発行所 国際協力事業団 国際協力総合研修所
〒162 東京都新宿区市谷本村町10番5号

電話 (03) 3269-2357

編集協力 財団法人 日本国際協力センター

.....

.....

.....